

アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



SANKO
FUKUSHI

社福
法人 **三幸福社会**

社会福祉法人 三幸福社会
特別養護老人ホーム 癒しの里西亀有

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順 1 ～ 6）
- 取組の経過報告
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

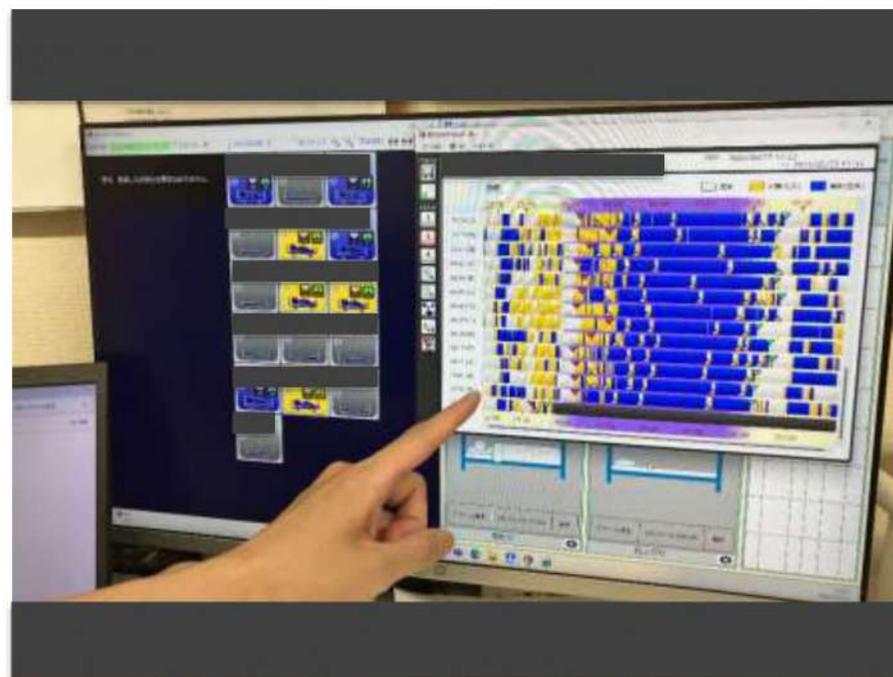
○施設概要

運営法人	社会福祉法人 三幸福社会
施設名	特別養護老人ホーム 癒しの里西亀有
所在地	東京都葛飾区西亀有3丁目18番6号
定員	120名(ショートステイ20名)
平均介護度	3.8
職員数	106名 事務所14名、看護6名、介護職(常勤45名、非常勤24)、ケアアテ15名、ドライバー2名
特徴	閑静な住宅街、「春夏秋冬」彩り豊かな自然に囲まれて、安心して生活できる家庭的なユニット環境。1ユニット10床。家庭的な空間を演出し、安心して生活して頂ける環境を作り、サービスを提供しています。



導入した次世代介護機器

メーカー名	パラマウントベッド株式会社
機器名	眠りSCAN
台数	106台



導入の手順

導入の6つの手順

取組期間：
約3カ月

取組実施者：
約8名

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">● 情報収集● 取組に対する組織全体での合意形成● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none">● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none">● 導入計画づくり● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none">● 導入準備● 次世代介護機器の活用● 小さな成功事例
手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">● 効果検証● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none">● 実行計画の練り直し

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間 : 2月～3月中旬

● 情報収集

- 法人内で使用している施設での研修、活動状況などの情報収集を行った。
- 次世代介護機器の展示会への参加、オンライン研修での情報収集を行った。

● 取組に対する組織全体での合意形成

施設内の生産性向上委員会内で管理職や専門職・フロー責任者への説明を行った。
今後、各フロアミーティングや情報ツールを活用し、職員全体への合意形成を行っていく。

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	統括責任者
2	生活相談員①	プロジェクトリーダー
3	生活相談員②	技術担当
4	介護主任①	調査担当
5	介護主任②	研修担当・事務担当
6	介護支援専門員	運用ルール担当
7	看護課長	リスク検討担当
8	副主任	マニュアル作成担当

手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 2月13日~2月20日

● 課題の見える化

原因

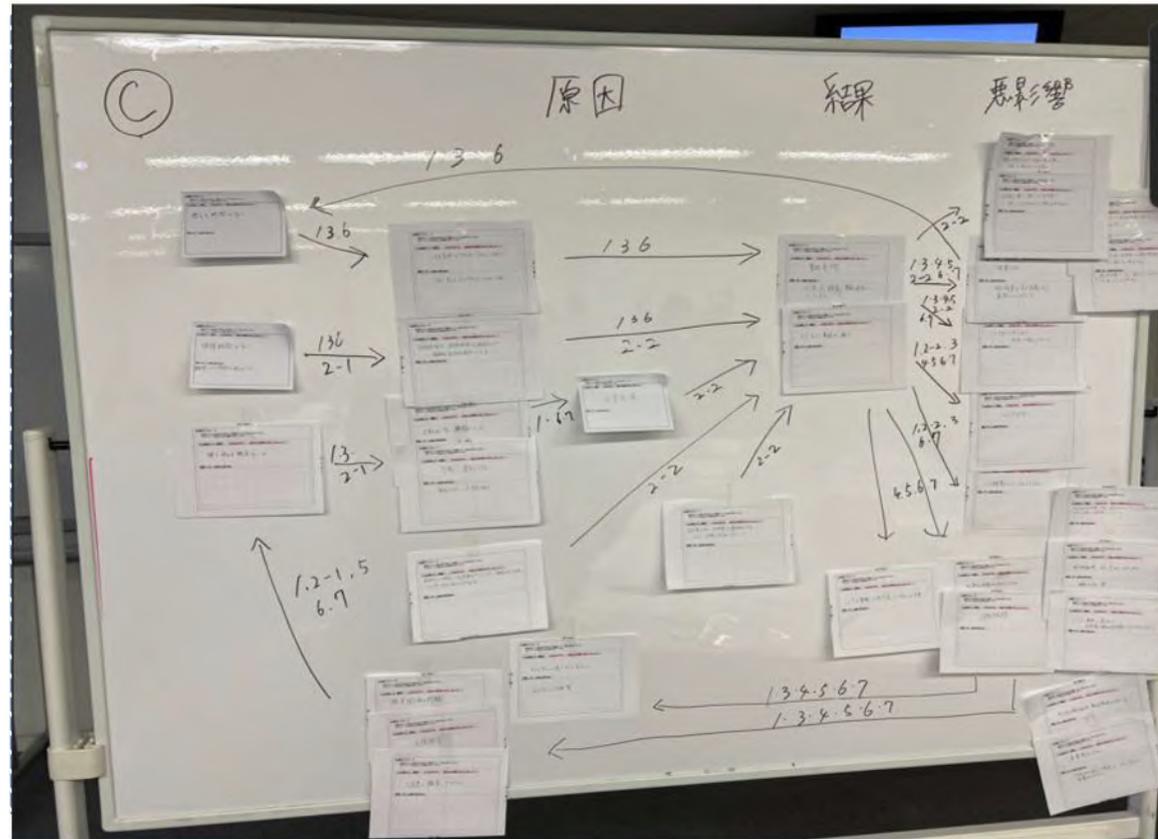
1 時間に 1 回の巡視

結果

職員の業務負担

悪影響

精神的・身体的負担が大きい



手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 2月26日～3月5日

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

- 夜間休憩時間が取れない事に対し眠りSCANを導入する事によって、休憩時間が取れる事や利用者への適切なタイミングでの訪室ができるようになり、1時間に1回の巡視という問題が軽減され、業務負担がなくなり、利用者の睡眠の妨げや職員の精神的・身体的負担が改善する事が期待される。

□ 導入する次世代介護機器

- パラマウントベッド社製 眠りSCAN

□ 成果指標

- 1時間に1回の巡視という問題軽減 (訪室回数)
- 職員の精神的負担の軽減 (アンケート)
- 職員の身体的負担の軽減 (歩数)
- 利用者の睡眠の質の向上 (夜間の覚醒時間)

手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 3月5日～4月2日

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- 自立度の高い利用者
→自立度の高い方で、生活状況や睡眠状況が曖昧な方
夜間巡視の際の訪室が、睡眠の妨げになっている方

□ 選定理由

- 自分のペースで過ごされている中で、普段から居室で過ごされており、生活状況の把握が曖昧だった。
→生活パターンや睡眠状況をしっかり把握し、今後のケアに活用していく為。

□ 選定する際に留意した点

- プロジェクトメンバーだけ選定するのではなく、各フロア責任者を中心に選定を行った。

手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間 : 3月5日～4月2日

● 導入準備

□ 実施内容

①管理職・専門職・フロアー責任者での合意形成

★前段階として、現状の課題分析と導入機器の選定をしっかりと行った。

②パラマウント（社）の担当より設置・使用法について説明を受ける

★プロジェクトメンバーだけでなく、各フロアー責任者も参加し説明を受けた。

③全フロアーのセンサーベッド以外のベッドに設置。

★事前にWi-Fi環境の確認、整備を行った。

④対象利用者の選定

★プロジェクトメンバーだけでなく、各フロアー責任者を中心に選定を行った。

⑤各フロアー職員への説明

★機器の導入に関する説明、現状の課題の再認識を行い、協力しやすい環境を整えた。

⑥マニュアル作成

★実際の図や動作画面の画像を中心に作成を行った。

□ 導入にあたって大切にしたいポイント

- ・しっかりと説明を受けて、マニュアルを作成し全職員と合意形成を図る。

手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間 : 4月2日～5月中旬

● 小さな成功事例の共有

□ 職員の声

睡眠状況が確認でき、自立でトイレに行かれる方のタイミングがわかる。

入眠しそうなタイミングでの巡視が減り、ご利用者様の眠りを妨げなくてすんだ。

□ 利用者の様子、変化

眠りスキンのデータから特変時に呼吸回数や心拍の様子などに変化が見られ早めに気づくことができた。

巡視で起きてしまう人が、タイミングを見て訪室してるため眠れるようになった。

□ 成功事例の共有方法

- 生産性向上委員会内で各専門職、フロア責任者へ共有を行った。
- 各フロアへ資料配布を行った。

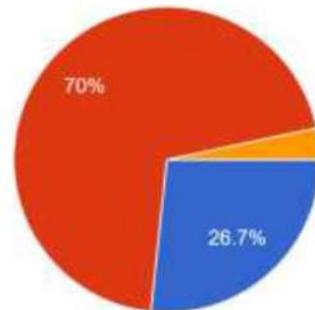
手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月5日～5月中旬

● 設定した成果指標における効果検証

- 1時間に1回の巡視という問題軽減（訪室回数）
- 職員の精神的負担の軽減（アンケート）
- 職員の身体的負担の軽減（歩数）
- 利用者の睡眠の質の向上（夜間の覚醒時間）

③ 眠りスキャンを導入してみて
30件の回答



- 1. とても良かった
- 2. 良かった
- 3. 悪かった
- 4. とても悪かった

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月5日～5月中旬

● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいった点・その要因

- 睡眠・排泄状況の可視化により、これまで把握が難しかった利用者の状態が一目でわかるようになった。
 - 自立の方の様子が眠りスキャンを見てわかるようになったため。
- 呼吸音の確認が難しい方の安否確認がしやすくなり、精神的な安心感が得られた。
- 夜間の巡視効率が向上し、訪室の回数を減らせたことで、利用者の眠りを妨げる機会も減少。
- 自立している方の排泄や離床のタイミング予測が可能となり、対応がスムーズになった。
- 夜間の安否確認を遠隔で行えるため、業務の負担軽減につながった。

□ 上手くいかなかった点・その要因

- 通信不良が複数台同時に起きることがあり不安を感じる場面がある。
 - 一部Wi-Fiの環境がうまく作動しきれていなかった。
- 一部職員からはまだ活用しきれていないとの声もあり、活用スキルのばらつきが見られる。
 - 説明やマニュアルが十分ではなかった
 - ・ 導入前と比べて明確な効果を感じにくいという声も一部にある。
 - 新しいものを入れたことに対しての抵抗がある職員もまだいるため。

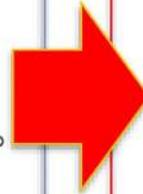
手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 5月中旬～

● 取組(全体)を通して見直したこと

Before

- ①通信不良が複数台同時に起きることがあり不安を感じる場面があった。
- ②一部職員からはまだ活用しきれていないとの声もあり、活用スキルのばらつきが見られた。
- ③導入前と比べて明確な効果を感じにくいという声も一部にあった。



After

- ①法人でのWi-Fi設備の点検、整備を実施。
- ②マニュアルを場面毎にわかりやすい画像を用いて再編成
- ③成功事例をフロアー職員に共有し、成功体験を実感してもらう。

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- 組織内でのプロジェクトメンバー・管理職・フロアー職員との課題の認識、合意形成を進めていく事。

→会議内での課題の抽出、課題の再認識に時間がかかったが、時間をかけ丁寧に取り組む事で適切な次世代介護機器の導入に繋がった。今後もフロアーミーティングや情報ツールを使用し、職員全体への合意形成を行っていきたい。

※次世代介護機器の導入に関して、まず初めに課題抽出を行い、次世代介護機器の選定を行った方が職員に対しての合意形成がスムーズに行えると感じた。

マニュアル作成

眠りスキャン使用マニュアル

1モニター画面



ホフロアで表示されている画面

2モニター画面



3モニター画面



心拍/分

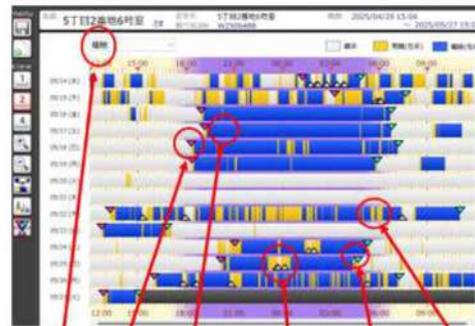
呼吸数/分

4モニター画面



1回クリックすると
①睡眠日誌が出てきます。

①睡眠日誌



項目：睡眠

青：睡眠

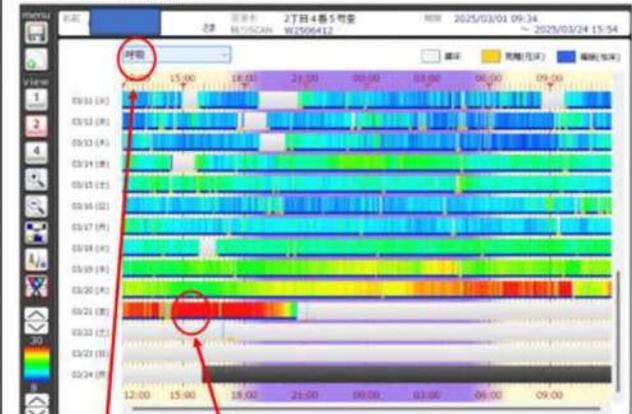
黄色：覚醒

ピンク↓：就寝時刻

白↑：離床

青↓：起床時刻

②呼吸日誌



項目：呼吸

※呼吸回数が多くなると色が赤くなってきます。呼吸の変化が見えます。

③心拍日誌



項目：心拍

※心拍回数が多くなると色が赤くなってきます。呼吸の変化が見えます。

導入後のアンケートについて

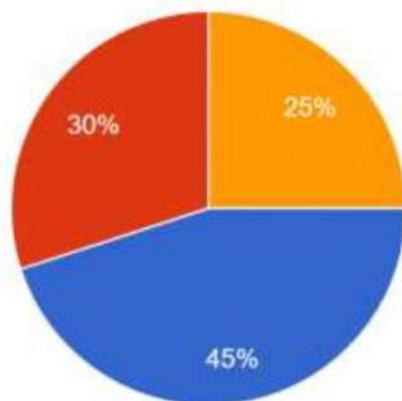
- ① 眠りスキヤンの利用状況（閲覧）
- ② ①の質問で利用している機能は？（複数選択可）
- ③ 眠りスキヤンを導入してみて
- ④ ③-3、③-4で答えた理由
- ⑤ 眠りスキヤン導入後の身体的負担は？（夜間）
- ⑥ ⑤-1で答えた理由
- ⑦ 眠りスキヤン導入後の精神的負担は？
- ⑧ ⑦-1で答えた理由
- ⑨ 眠りスキヤン導入後、利用者の睡眠の妨げになっていたか。
- ⑩ ⑨-1で答えた理由

導入後のアンケートについて

● ① 眠りスキヤンの利用状況（閲覧）

① 眠りスキヤンの利用状況（閲覧）

20件の回答



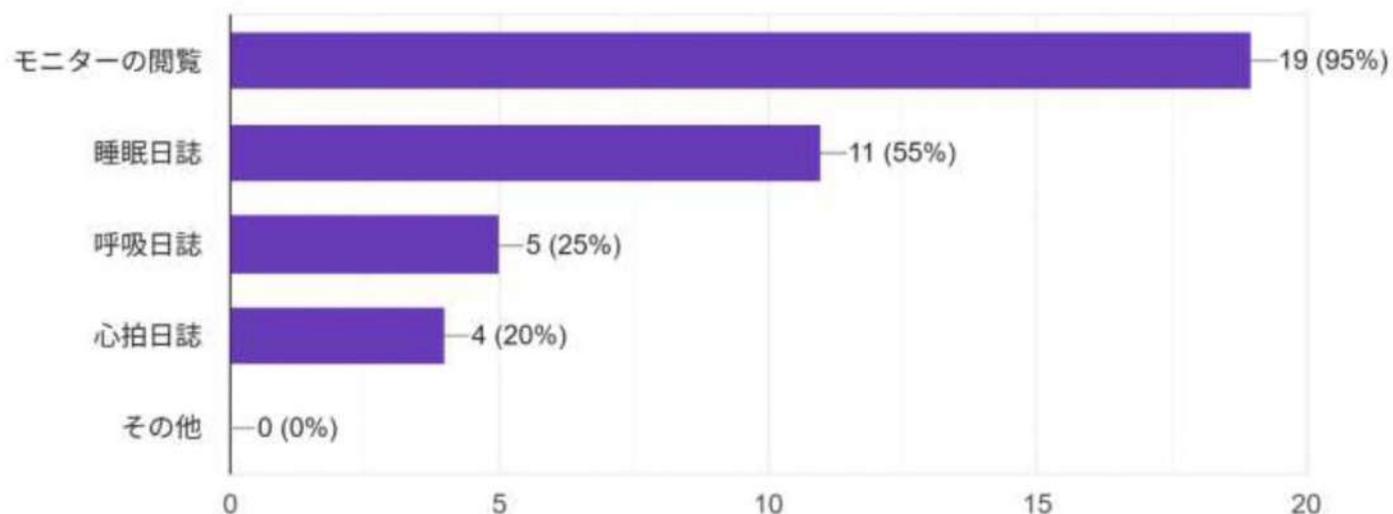
- 1. 常にご利用
- 2. よく利用
- 3. たまにご利用
- 4. 非利用または不明

導入後のアンケートについて

● ② ①の質問で利用している機能は？（複数選択可）

② ①の質問で利用している機能は？（複数選択可）

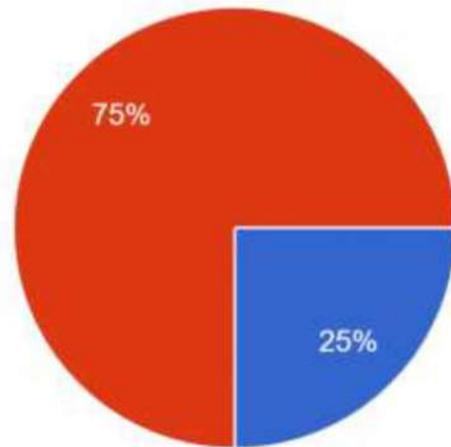
20件の回答



導入後のアンケートについて

● ③ 眠りスキャンを導入してみた

③ 眠りスキャンを導入してみた
20件の回答



- 1. とても良かった
- 2. 良かった
- 3. 悪かった
- 4. とても悪かった

導入後のアンケートについて

● ④ ③-3、③-4で答えた理由

在床、離床の弁別が容易で効果的な訪室ができる、睡眠リズムの振り返りができるなど

眠れているか確認できる為

排泄の介入や巡視のわかりご入居者様の睡眠の妨げにならないようにできる点

巡視の負担減った

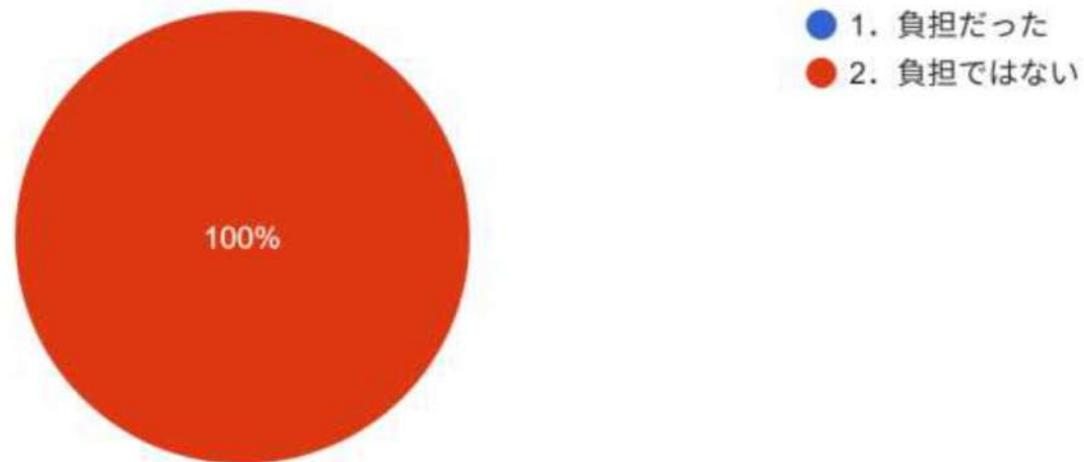
巡視が楽になった。

導入後のアンケートについて

● ⑤ 眠りスキャン導入後の身体的負担は？（夜間）

⑤ 眠りスキャン導入後の身体的負担は？（夜間）

20件の回答



導入後のアンケートについて

● ⑥ ⑤-1で答えた理由

回答の通りです

ご入居者様の覚醒状態に合わせた巡視。排泄介助等できるようになり楽になった。

負担では無くなったが、眠りスキャンがあるからと言って巡視が無くなるわけではないから身体的負担は特に変わらず。

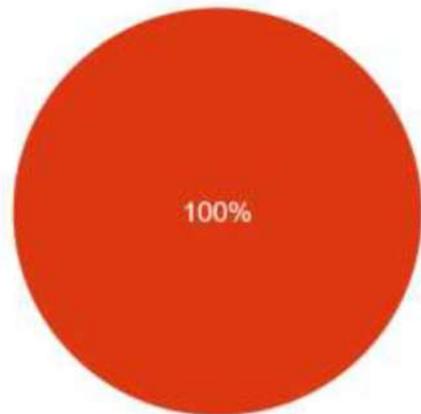
巡視が楽になったから

導入後のアンケートについて

● ⑦ 眠りスキャン導入後の精神的負担は？

⑦ 眠りスキャン導入後の精神的負担は？

20件の回答



- 1. 負担だった
- 2. 負担ではない

導入後のアンケートについて

- ⑧ ⑦-1で答えた理由

回答の通りです

目安ではあるが画面上でも呼吸状態等知れるから。

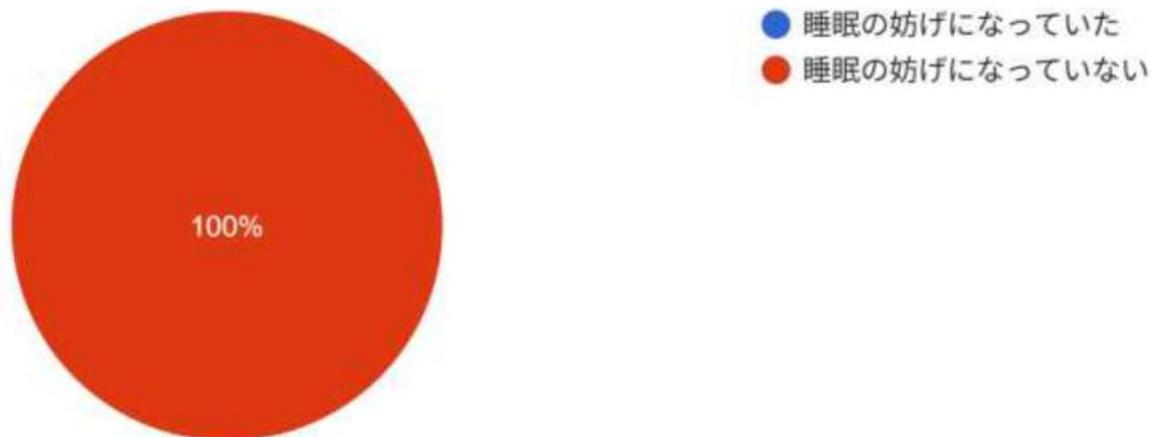
巡視が楽になったからなんだなあ

導入後のアンケートについて

- ⑨ 眠りスキャン導入後、利用者の睡眠の妨げになっていたか。

⑨ 眠りスキャン導入後、利用者の睡眠の妨げになっていたか。

20件の回答



導入後のアンケートについて

- ⑩ ⑨-1で答えた理由

そのように推測されるから

音とかもない為ご入居者様からそう言ったことを今のところ聞かない為。

妨げになる理由が見つからない

眠りスキャンを使用しているの取り組みについて

- 夜間休憩の取り組みを行う（眠りスキャンの使用方法説明）
↓
- 各フロアでリスク表の作成（8月）
↓
- 夜勤休憩のオペレーションの検討（9月）
↓
- 1時間休憩を行ったつもりで対応（10月）
↓
- 実際に30分の休憩の実施（11月）
↓
- 1時間休憩の実施（12月）

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

1. 導入の目的を明確に
2. 導入のメリット
夜間巡視の効率化・データに基づくケアの実現・業務負担軽減
3. 導入時に注意したいポイント
4. 最後に